

トラック輸送情報（平成25年7月分）

平成25年10月4日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：内田 内線28711

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,886,271トンで、前月と比べ総輸送量が約780千トン増加したため、前月比115.3%（季節調整済み103.5%）となり、前年同月との比較では、約405千トン増加したため、前年同月比107.4%の実績であった。

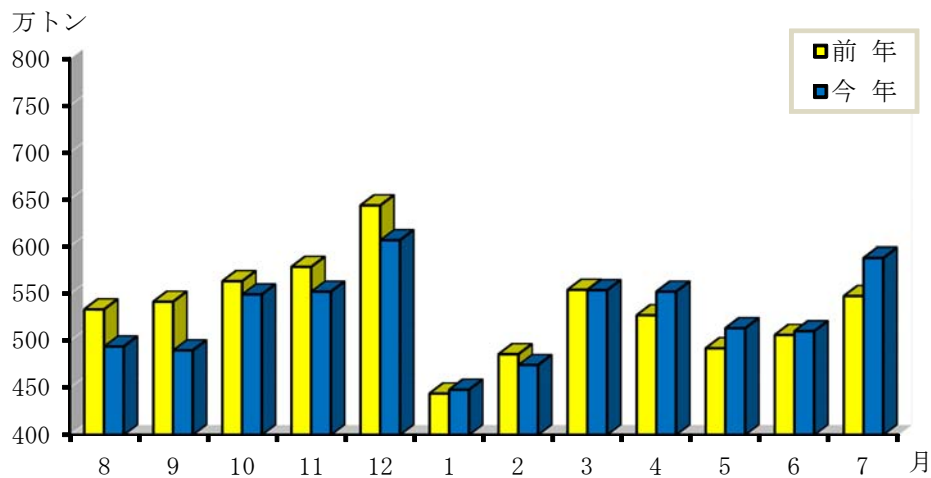
なお、平均稼働日数は25.3日で、前月と比べ1.1日増加し、前年同月との比較では、1.0日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、232,659トンで、前月と比べ約22千トン増加したため、前月比110.3%となり、前年同月との比較では、約7千トン増加したため、前年同月比103.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

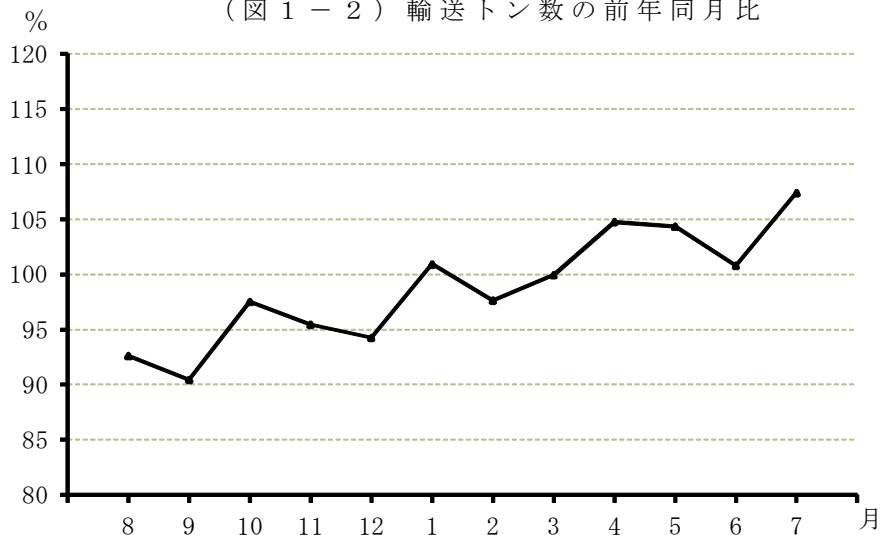
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、2社減り、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

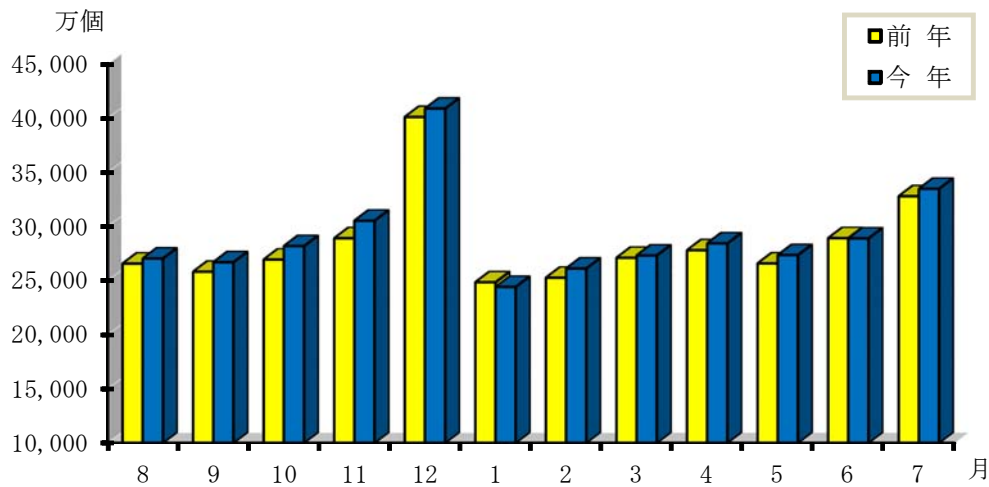


(2) 宅配便の概況

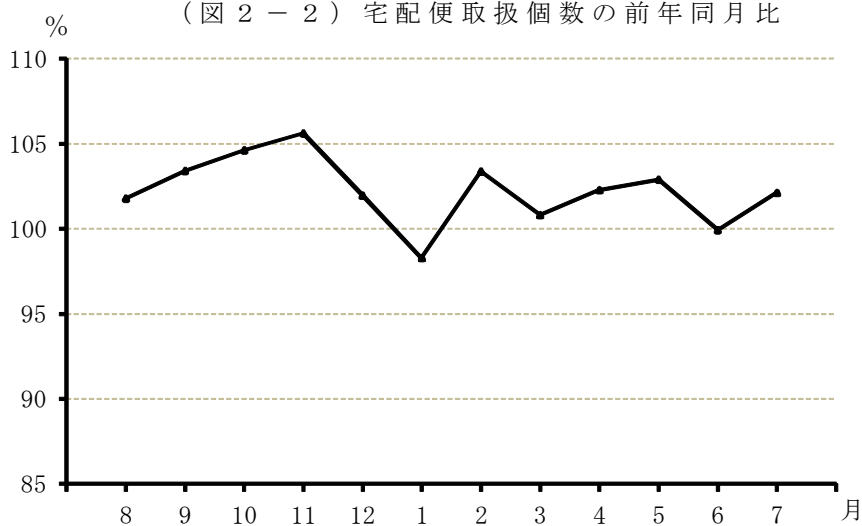
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、335,000 千個で、前月と比べ 約 4,585 万個増加したため、前月比 115.9% (季節調整済み 98.0%) となり、前年同月との比較では、約 690 万個増加したため、前年同月比 102.1% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 25 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「農水産品」、「繊維工業品」を除き、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。主な増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が多く見られたほか、デパート、スーパーの貨物増が「その他 (百貨店配送品)」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、「化学工業品」、「食糧工業品」、「日用品」で輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。主な増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が多く見られたほか、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」で見られた。地域については、「化学工業品」では、関東地方から中国の範囲で、「食糧工業品」では、愛知、大阪で、「日用品」では関東で増加したと回答する事業者が多かった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前月比	農水産品	2	3	11		2		4
	金属製品		7	13	1		その他の金属製品 関東地方、北陸信越、愛知、大阪	4
	機械		9	10	1		機械部品 東京、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	化学工業品		8	11	3		合成樹脂 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	繊維工業品		3	17	2			
	食料工業品		9	11			製造食品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	日用品		7	14	1		東京、関東、北陸信越、大阪	4
	その他	3	5	12	1		その他(百貨店配送品)	2
前年同月比	農水産品		3	12	2	1		
	金属製品		7	13	1		大阪	4
	機械	1	3	13	3		愛知	4
	化学工業品	1	7	11	3		合成樹脂 神奈川、関東、中部地方、大阪、兵庫、中国	4, 7
	繊維工業品	1	3	14	3		神奈川、関東、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫	4
	食料工業品	2	5	11	1		製造食品 愛知、大阪	
	日用品	2	4	13	1	1	その他の日用品 関東	4
	その他	2	4	11	3			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者806社/調査対象事業者数1,069社)の輸送量は、前月比 108.5%、前年同月比 105.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	105.2 %	109.5 %	102.9 %	102.4 %	103.9 %	104.3 %	97.8 %	105.4 %	106.9 %	105.7 %	102.1 %	
前 月 比	108.5 %	112.9 %	107.1 %	104.5 %	108.9 %	107.9 %	106.0 %	107.7 %	104.1 %	108.8 %	102.1 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比112.9%、対前年同月比109.5%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増により「化学肥料」が、季節的需要増により「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比107.1%、対前年同月比102.9%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「取り合わせ品」が、天候の影響及びデパート・スーパーからの貨物増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比104.5%、対前年同月比102.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「金属製品」が、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比108.9%、対前年同月比103.9%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」、「化学肥料」が、また、「金属製品」についても輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比107.9%、対前年同月比104.3%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により、「砂利・砂・石材」、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比106.0%、対前年同月比97.8%であった。品目別では、夏季需要増大による飲料等の輸送が増えたことにより「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比107.7%、対前年同月比105.4%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により、「鉄鋼」、「食料工業品」が、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物減により「畜産品」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比104.1%、対前年同月比106.9%であった。品目別では、季節的需要増により、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により、「穀物」、「野菜・果物」が、建設関連の需要減により「機械」が、工場・生産地からの貨物減により、「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比108.8%、対前年同月比105.7%であった。品目別では、飲料、アイスクリーム等の季節的需要増により「食料工業品」が、建設関連の需要増により「機械」が、工場・生産地からの貨物増により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、猛暑など天候の影響により「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比102.1%、対前年同月比102.1%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		増	減	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
1. 穀物	増	2					1					3		6
	減		1								2	1		4
2. 野菜・果物	増	4	9	1								3		17
	減	2	1							3	3	8		17
3. その他の農産品	増	1							1		1			3
	減	1					1	1						3
4. 畜産品	増											3		3
	減									2		1		3
5. 水産品	増	1	3									1		5
	減	2	1							1		2		6
6. 木材	増	3					1			3		2		9
	減	1	2					1		1	1	1	1	8
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増													
	減		1											1
9. 金属鉱物	増									1				1
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	13	2				1	2		3		3		24
	減	2	2				1			3	1	1		10
11. 工業用非金属鉱物	増	4								1		1		6
	減	1	2							1	3			7
12. 鉄鋼	増	2	1				1	1		5	1	5	2	18
	減							1		1	4	1		7
13. 非鉄金属	増		2							2		1		5
	減													
14. 金属製品	増	1	1	1	3			1	2			7	1	17
	減		2									1		3
15. 機械	増	1					1	4	2		1	6		15
	減	1	1					1	2		4	3	1	13
16. セメント	増	5	1					2		2	1	3		14
	減		1					2		2	1	2		8
17. その他の窯業品	増						1							1
	減						1			1				2

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増				1			1				2
	減											
19. その他の石油製品	増	5	2		1			2	1			11
	減	2	1						1			4
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21. 化 学 薬 品	増						1	1				2
	減								1			1
22. 化 学 肥 料	増	3			2			1		1		7
	減											
23. その他の化学工業品	増		1			1				2		4
	減			1				1	1			3
24. 紙 ・ パ ル プ	増	1			1	1	2	1	1	2	1	10
	減	1				1			1	2		5
25. 織 維 工 業 品	増	1	1						1			3
	減									1		1
26. 食 料 工 業 品	増	1	7	3	5	1	3	15	4	19	2	60
	減	1	2						1	4		8
27. 日 用 品	増	2	1	1	1		2	1	1	2	1	12
	減	1					1			1		3
28. その他の製造工業品	増	1	1	1		2		1		1		7
	減	1				1			1	2		5
29. 金 属 く ず	増										1	1
	減							1		2		3
30. その他のくずもの	増							1	1	1		3
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	3	1									4
	減	3							1	3		7
32. 廃 棄 物	増		5							1		6
	減							3	1			4
33. 輸 送 用 容 器	増								1	1		2
	減				1							1
34. 取 り 合 せ 品	増	1	3					3		2		9
	減							3		1		4
35. そ の 他	増	1	2	2	4	1	4	5	2	5		26
	減		1		1	1	4	2	2	2	1	14